

2019年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2019年8月10日

- I 会社概要**
- II 事業概要**
- III 2019年12月期 第2四半期決算実績と
2019年12月期 通期業績予想**
- IV 今後の成長戦略**

I 会社概要

会社概要



- 商号 株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
- 設立 1977年11月2日
- 本社所在地 佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
- 代表者 代表取締役会長兼社長 唐川文成
- 従業員数 171名（2019年6月30日現在）
- 事業内容
 - ・病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売
 - ・OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
- 主要取引先 東邦薬品株式会社 株式会社メディセオ
アルフレッサ株式会社 株式会社バイタルネット
株式会社スズケン 富士フィルム株式会社 他
- 営業拠点
 - ・本社 ・東京営業所 ・大阪営業所
 - ・名古屋営業所 ・その他各地駐在
- 開発拠点
 - ・本社（鳥栖） ・遺伝子研究所（久留米）



本社・工場（佐賀県鳥栖市）



久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）

Ⅱ 事業概要

「病院・開業医分野」と「OTC・その他分野」



病院・開業医分野



免疫血清
POCT

遺伝子
POCT



OTC・その他分野



OTC

農業



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査



① POCT迅速診断キット (目視判定)

クイック チェイサー シリーズ

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

呼吸器感染症検査薬

インフルエンザウイルス



アデノウイルス



RSウイルス



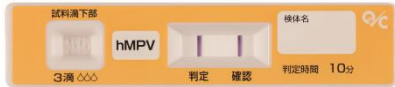
Strep A (A群β溶連菌)



RSV/hMPV



hMPV



マイコプラズマ

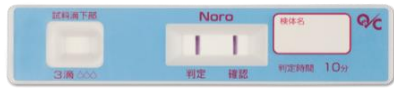


肺炎球菌/レジオネラ



消化器感染症検査薬

ノロウイルス



ロタ/アデノ



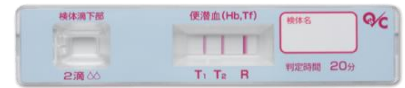
【新製品】

H.ピロリ



尿糞便検査薬

便潜血



➤ 高感度感染症迅速診断システム

- ◎ 当社のメンブレン技術と富士フィルム株式会社の写真の現像技術を融合した増幅反応により高感度化を実現
- ◎ インフルエンザウイルス、マイコプラズマ、RSV/Adeno の高感度製品3項目、アデノウイルス、Strep A(A群β溶連菌)の計5項目をラインナップ

デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader II



【製品の特長】

- ◆ 早期診断が可能
(発症初期の診断精度向上)
- ◆ 装置による結果判定
(判定結果はモニター表示
とプリントアウト)

【IIの実用性向上ポイント】

- ◆ コンパクト化（省スペース）
- ◆ タッチパネルの採用
(操作性・視認性向上)
- ◆ バーコードリーダー搭載
(検体ID情報等読取可)

【専用試薬】

クイックチェイサー® Autoシリーズ

Flu A,B



Myco



RSV/Adeno



Adeno



Strep A



③ 遺伝子POCT機器試薬システム



▶ 全自動遺伝子解析装置（PCR・Qプローブ法）

微生物/遺伝子検査が身近に

※2019年7月に「肺炎マイコプラズマ肺炎に対する治療指針」(日本マイコプラズマ学会策定)が改訂され、急性期の確定診断において実施することが望ましいとされるマイコプラズマ核酸増幅法として、従来のLAMP法に加え、新たにQプローブ法が追加されました。

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene



【機器の特長】

- ◆ 迅速判定が可能
- ◆ 1ステップ自動判定。試薬ロスができません
- ◆ 核酸分子の配列情報を解析できます
- ◆ コンパクト設計の卓上タイプ
- ◆ タッチパネルでスムーズな操作

マイコプラズマ核酸キット

スマートジーン® Myco

専用試薬



【試薬の特長】

- ◆ マイコプラズマ核酸検出が試料滴下からわずか約30～50分の迅速判定
- ◆ 煩雑な前処理不要で、院内検査が可能
- ◆ マイコプラズマ 23S rRNAの変異株も含め全てが検出可能



➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



※妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ

◎ 武田コンシューマーヘルスケア(株)販売のハイテスターシリーズ

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



**Ⅲ 2019年12月期 第2四半期決算実績と
2019年12月期 通期業績予想**



➤ 業績ハイライト(第2四半期累計)

✓売上高	2,846百万円	(前年同期比	8.0%減、予想比	5.9%減)
✓営業利益	434百万円	(前年同期比	24.9%減、予想比	8.6%減)
✓経常利益	435百万円	(前年同期比	24.9%減、予想比	8.6%減)
✓四半期純利益	313百万円	(前年同期比	28.4%減、予想比	11.6%減)

※予想比は、2019年5月13日2Q修正予想

➤ ポイント

- ✓前年同期比では、インフルエンザ流行の急速な終息の影響により、減収減益
- ✓予想比(5/13修正)では、その他感染症項目の一部が流行の影響を受け、予想をやや下回るも、通期業績予想(5/13修正)は据え置き
 - ・売上高(通期) 7,072百万円(前期比 10.1%増)見込
 - ・経常利益(通期) 1,306百万円(前期比 7.8%増)見込

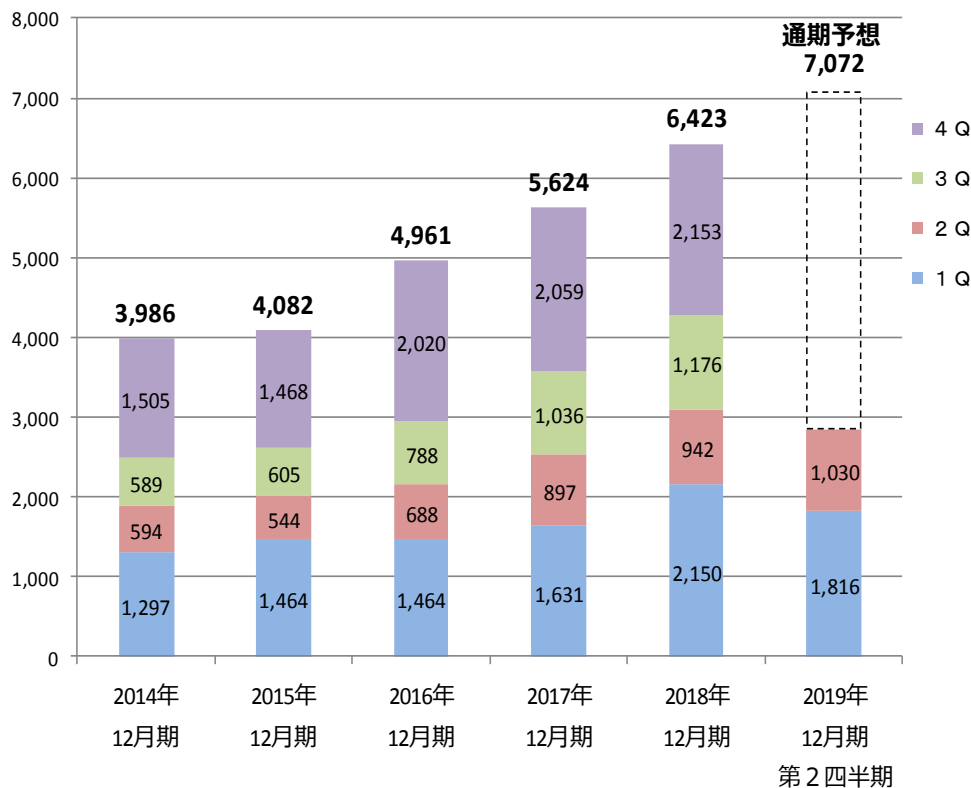
2019年第2四半期決算実績 業績の推移（売上高、経常利益）



- 過去最高売上高・過去最高益を連続更新中(通期)
- 売上高・経常利益は、第1・第4四半期（インフルエンザ流行期）に集中

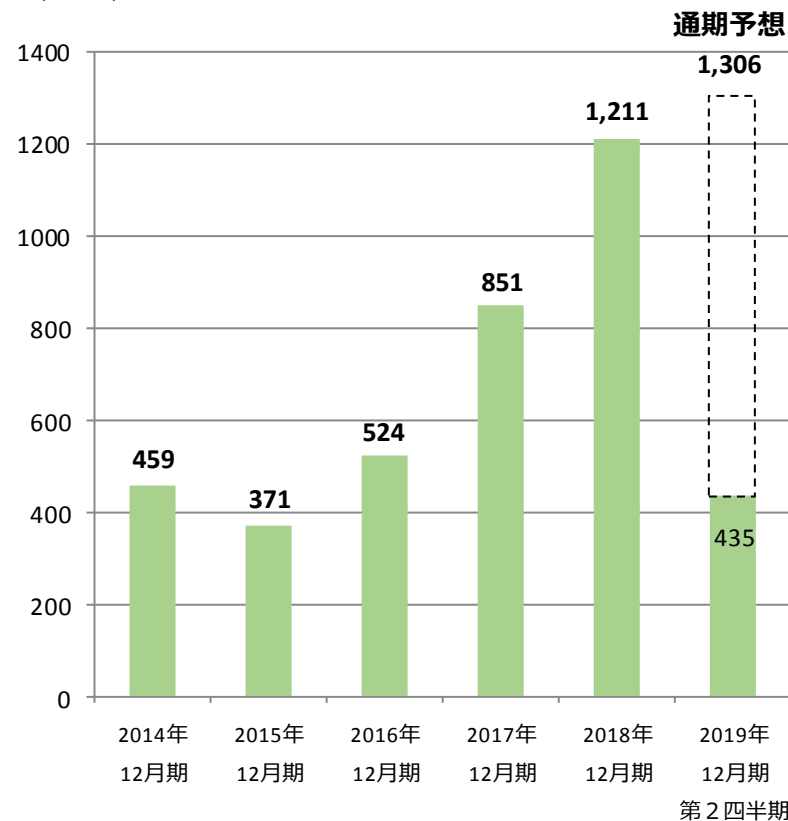
売上高

(百万円)



経常利益

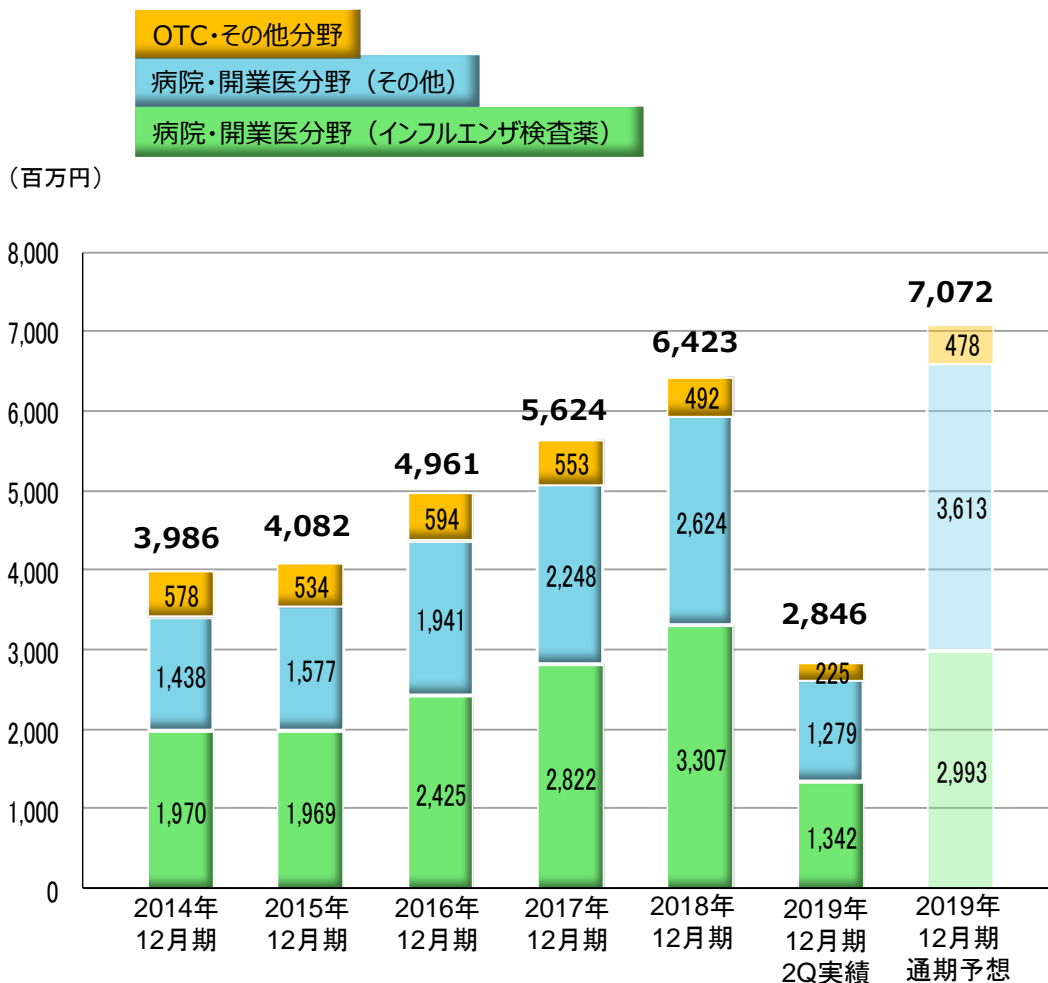
(百万円)



2019年第2四半期決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2019年第2四半期累計 (2,846百万円 前年同期比8.0%減)

■病院・開業医分野 (2,621百万円 同8.2%減)

◇インフルエンザ検査薬 (1,342百万円 同20.2%減)
 ・2018/2019シーズンのインフルエンザの流行は、ピーク時は、患者数が過去最多数となった前シーズンを上回る強い流行となったものの、前シーズンとは異なり、その後急速に終息

・この影響により検査薬の需要が減少し、大幅な減収

◇その他 (1,279百万円 同8.9%増)

・その他感染症項目の検査薬全体では増収基調を維持

・シェアの拡大とともに売上高が増加
 RSV/ヒトメタニューモ、肺炎球菌/レジオネラノロウイルス、ロタ/アデノ検査薬など

・その他感染症項目のうち、主力項目の流行が、前年や前々年と比べて小さく、苦戦するも堅調に推移
 アデノウイルス、Strep A、眼科用アデノ検査薬

■OTC・その他分野 (225百万円 同5.0%減)

・妊娠検査薬及び排卵日検査薬
 価格競争が続くなか、販促企画等で売上高の維持に努めるも苦戦

損益計算書 P/L (前年同期比、予想比)



➤ 売上高 2,846百万円 (前年同期比 8.0%減、予想比 5.9%減)

➤ 経常利益 435百万円 (前年同期比 24.9%減、予想比 8.6%減)

✓前年同期比：2018/19シーズンのインフルエンザ流行の急速な終息の影響により、減収減益

✓予想比：主にその他感染症項目の主力項目アデノ、Strep A、眼科用アデノのGW後の流行が過去5年で最も小さく、売上高が計画ほど伸びなかった影響により、計画未達 (百万円)

	2018年12月期		2019年12月期							
	2Q累計実績		2Q累計予想 (5月13日修正)		2Q累計実績		前年同期比		予想比 (5月13日修正)	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	3,093	100.0	3,024	100.0	2,846	100.0	△246	△8.0	△177	△5.9
差引売上 総利益	2,130	68.9	2,041	67.5	1,900	66.8	△229	△10.8	△140	△6.9
販売費及び 一般管理費	1,551	50.1	1,566	51.8	1,466	51.5	△85	△5.5	△100	△6.4
営業利益	578	18.7	475	15.7	434	15.3	△144	△24.9	△40	△8.6
経常利益	580	18.7	476	15.7	435	15.3	△144	△24.9	△40	△8.6
四半期 純利益	437	14.2	354	11.7	313	11.0	△124	△28.4	△41	△11.6

2019年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (資産)



□ 当社第2四半期末 B/Sの特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- ▶ インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が、第2四半期会計期間に集中するため、前期末と比べ、売上債権は減少し、現金及び預金は増加する傾向あり

(百万円)

	2018年 12月末	2019年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	3,694	2,913	△780	
現金及び預金	235	644	409	・売上債権の回収に伴う増加
売上債権	2,229	949	△1,279	・主にインフルエンザ検査薬の 売上債権の回収に伴い減少
たな卸資産	1,151	1,243	92	
その他流動資産	78	76	△2	
固定資産	1,888	2,500	611	
有形固定資産	1,602	2,243	641	・主に建物(久留米工場)の増加
無形固定資産	15	14	0	
投資その他の資産	270	241	△29	
資産合計	5,582	5,413	△169	

2019年第2四半期決算実績 貸借対照表 B/S (負債・純資産)



(百万円)

	2018年 12月末	2019年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動負債	1,703	1,492	△210	
仕入債務	568	323	△244	・買掛金の減少 △202
短期借入金	377	362	△15	
その他流動負債	757	806	49	・未払金の増加 398 ・未払費用の減少△104 ・未払法人税等の減少△118など
固定負債	723	728	4	
長期借入金	25	-	△25	
その他固定負債	698	728	29	
負債合計	2,427	2,220	△206	
株主資本	3,155	3,192	37	
資本金	464	464	-	
資本剰余金	274	274	-	
利益剰余金	2,417	2,454	37	・2018年12月期配当金△276 ・四半期純利益313
純資産合計	3,155	3,192	37	
負債純資産合計	5,582	5,413	△169	

2019年第2四半期決算実績 キャッシュ・フロー計算書 C/F



□ 当社第2四半期 C/Fの特徴 「インフルエンザの季節変動の影響」

- インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が、第2四半期会計期間に集中するため、売上債権の減少により、通期に比べ、「営業活動によるキャッシュ・フロー」が増加する傾向あり

(百万円)

	2018年2Q (1月～6月)	2018年通期 (1月～12月)	2019年2Q (1月～6月)	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	1,211	670	1,118	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の減少 (+1,279) ・税引前四半期純利益 (+435) ・仕入債務の減少 (△244) ・法人税等支払 (△203) ・未払費用の減少 (△104) ・たな卸資産の増加 (△92)
投資活動による キャッシュ・フロー	△343	△717	△392	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得 (△390)
財務活動による キャッシュ・フロー	△242	16	△316	<ul style="list-style-type: none"> ・配当金の支払 (△276) ・長期借入金金の返済 (△40)
現金及び現金同等物 の増減額	625	△30	409	
現金及び現金同等物 の期首残高	265	265	235	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	891	235	644	

2019年12月期 通期業績予想



- 第2四半期累計予想及び実績 ⇒ その他感染症項目の一部が流行の影響を受け、やや計画未達
- 通期業績予想 ⇒ 修正予想（2019年5月13日修正）を据え置き
 - ✓ インフルエンザ検査薬 → 下期(7月～12月)は流行のピーク前であるため、流行規模の直接的な影響を受けにくく、計画どおりの安定的な売上高を見込む
 - ✓ その他感染症項目の検査薬 → それぞれ流行の影響を受けつつも、採用施設の増加等により、全体的には計画どおりの増収基調の継続を予想

(百万円)

	2018年12月期		2019年12月期				
	前期実績		2Q累計実績		通期予想 (5月13日修正)		前期比
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)
売上高	6,423	100.0	2,846	100.0	7,072	100.0	10.1
売上総利益	4,326	67.4	1,900	66.8	4,775	67.5	10.4
販売費及び 一般管理費	3,105	48.3	1,466	51.5	3,454	48.8	11.2
営業利益	1,220	19.0	434	15.3	1,321	18.7	8.2
経常利益	1,211	18.9	435	15.3	1,306	18.5	7.8
当期純利益	919	14.3	313	11.0	965	13.6	5.0

IV 今後の成長戦略

オールインワン（遺伝子抽出・増幅・検出） 試薬による遺伝子POCT検査を実現

全自動遺伝子解析装置

Smart Gene[®]

Smart Gene 専用試薬
マイコプラズマ核酸キット
『スマートジーン[®] Myco』



▶ 遺伝子POCT検査機器・試薬システムへの期待

● 感染症の遺伝子検査

クリニック、市中病院→外注
(検査センターでの検体検査)

検査結果を得るのに数日を要する

基幹病院→検査室にて複数検体処理

高価な装置の導入、ランニングコスト

● 薬剤耐性鑑別検査

病院、検査センターの微生物検査室にて
増菌培養と同定及び薬剤感受性検査

検査結果を得るのに数日を要する

● 感染症の早期確定診断と早期治療

検査実施日のうちに検査結果を提供

(2018年より迅速微生物核酸同定・検査加算
点数適用)

遺伝子POCT検査

- ・簡単な操作性
- ・コンパクトで低コストな装置
- ・院内検査が可能
- ・診療の場で結果出力
(早期治療と的確な投薬)



● 薬剤耐性菌の早期鑑別

抗菌薬の不適切な使用の防止

(2015年国際的な国家行動計画として
薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランが提言)

▶ 遺伝子検査のPOCT化による遺伝子検査マーケットの拡大

● 感染症診断における遺伝子POCT検査の実用化と普及

- 簡易で低コストな機器試薬システムによる感染症の原因菌やウイルスを早期に検出
 - ⇒ 初期感染の見逃し防止、
院内・家族内感染の防止、
早期治療（一般病院検査室、開業医での検査実施）
- 各種抗菌剤に対し耐性化した遺伝子変異部を増幅して特異的に検出
 - ⇒ 的確な投薬の選択（重篤化の低減と死亡率の低下）

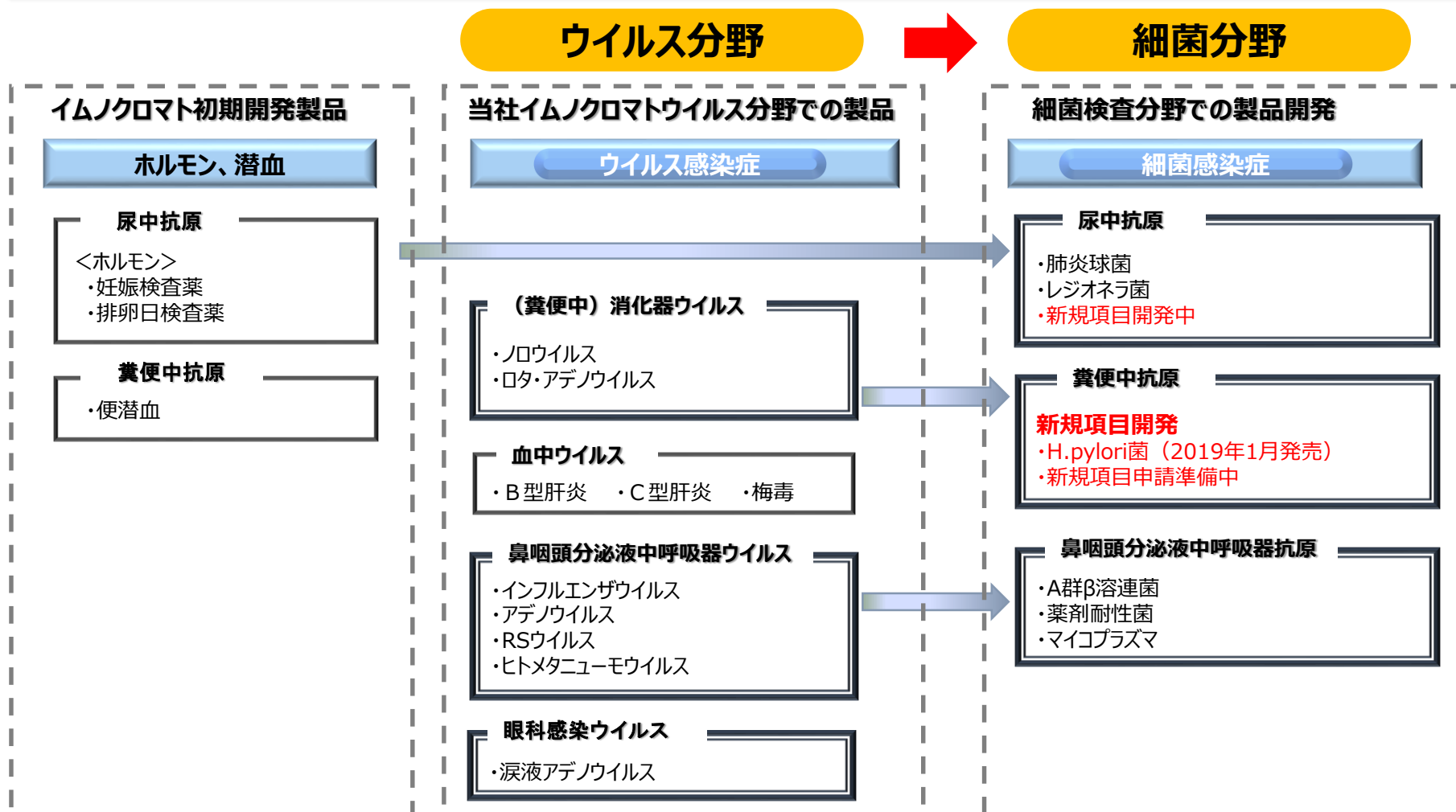
● 遺伝子POCT検査マーケットの拡大

- 新たな遺伝子POCT検査項目の開発と製品化（夏場および通年流行の感染症）

<開発項目分野>

- 呼吸器感染症項目（ウイルス、細菌）
- 消化器感染症項目（ウイルス、食中毒菌）
- 泌尿器感染症、婦人科感染症項目（細菌）
- 薬剤耐性菌項目

クイックチェイサーシリーズの拡大



技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新 [ウイルス・細菌に特化]

病院・開業医分野

OTC・その他分野

確定診断技術

遺伝子POCT検査による
確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・泌尿器感染症、婦人科感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



- ・感染初期の確定診断
需要を拡大

◎環境・食品検査分野
への応用開発

- ・遺伝子POCT技術を応
用した環境・食品微生物
検査への展開

スクリーニング検査技術

クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良

◎感染症マルチ検査システムの開発（免疫、遺伝子）

- ・正確性・迅速性への更なるシーズ開発



- ・ウイルス分野から
細菌分野への市場
創出

スイッチOTCマーケット
での業績拡大

- ・スイッチOTC製品の
先発販売
- ・武田コンシューマーヘル
スケアとの販売提携

安定的収益と企業成長

自社開発・製造販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

お問い合わせフォーム：https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir_contact

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。